

宇部工業高等専門学校校外発表論文等（抄録）

【学術論文】

畑村学：『順宗実録』陽城伝の成立過程、『中国中世文學研究』第63・64合併号（森野繁夫博士追悼特集）、2014年9月25日、p.167-182

『順宗実録』巻四に掲載される徳宗朝の諫議大夫・陽城の伝記が、どのような資料をもとにいかなる経緯で制作され、そこに撰者である史官韓愈の史才がどのように表現されているかを考察した。

『唐会要』巻五五「省号下・諫議大夫」には諫議大夫時代の陽城の事績を記した記事が掲載される。その記事が、文中に使用される語彙や表現から、もと『徳宗実録』（散逸）からの引用である可能性が高いことを指摘した。その上で、現行『順宗実録』陽城伝の該当箇所と比較し、史官韓愈の叙述態度を、①口語語彙を用いて陽城の口吻を生々しく伝えようとしていること、②徳宗批判の鮮明化、③陽城の抗議行動の反響とその正当性の強調の3点にまとめた。

畑村学：孔子にもの申す意見文の授業—モデルコアカリキュラムに対応した漢文授業の実践—、論文集「高専教育」、第37号、2014年3月、p.335-340

本校低学年の漢文の授業で実施している、「論語」を読解した上で、そこに記される孔子やその弟子の考えや主張に対し、学生が自らの意見を200～500字程度で述べるという取り組みを紹介した。限られた時間数のなか、モデルコアカリキュラムに提示される国語の到達目標を個別にすべて達成するのは困難である。しかし、漢文（古典）の授業であっても、やり方を工夫することでコミュニケーション能力や文章表現能力等を習得することは可能であり、本報告では「論語」を取り上げてその具体的な取り組みについて紹介した。

【学会発表】

畑村学：女子マネジャーが活躍するクラブ活動—課外活動を通じた女子学生のキャリア支援について—、

平成26年度全国高専フォーラム（世話校：石川工業高等専門学校、会場：金沢大学）、2014年8月26～28日

宇部高専ラグビー部におけるマネジャーの役割を紹介し、女子マネジャーがクラブ行事のマネジメントに積極的に関わることで、学生のキャリア形成に良い影響があることを報告した。

本校は全国の高専で3番目に女子学生が多く、1つのクラブに複数の女子学生がマネジャーとして所属するケースも多い。報告ではラグビー部の年間の活動内容を紹介し、マネジャーがクラブ運営やマネジメントにどのように関わっているかを紹介し、特に組織の中での主務（チーフマネジャー）の役割の重要性、新たに開催した「マネジャー交流会」について詳しく説明した。

畑村学：コミュニケーション能力を育てる高専漢文の授業、平成25年度木更津工業高等専門学校一般教育研究会、2014年3月7日

漢文の授業であっても、授業の中でプレゼンテーション等の「アクティブ・ラーニング」を取り入れることで、授業が活性化し、学生のコミュニケーション能力を向上させることが可能である。発表では、畑村がこれまで取り組んできた実践例として、①名前の漢字を調べよう、②「論語」プレゼンテーション、③孔子にもの申す「意見文」の授業を紹介し、具体的な授業の内容及びその効果について報告した。

中村嘉雄：ヘミングウェイと血、日本ヘミングウェイ協会第25回全国大会研究発表、2014年

アーネスト・ヘミングウェイの長編小説『日はまた昇る』（1926）のテキストに描かれた反ユダヤ主義的な表象を、ナチズム的な観点から再考した。とくに、ユダヤ人ロバート・コーンの低くなった「鼻」を、ユダヤ人を含む人種的なマイノリティーの間で流行っていた当時の美容整形術とのつながりから分析を行い、

そこに、のちのナチズムと関わりの深い、当時の「血」を巡る人種科学の影響を確認した。

【講演】

畑村学：日本學生學習漢文—以論語為例—、平成 26 年 12 月 18 日、台湾國立聯合大學二坪山校区蓮荷電影院

台湾國立聯合大學華語文学系の学生 100 名に対し、

中国語で講演を行った。

講演では、まず日本の小学校から高校まで国語の授業でどのような漢文教材が扱われているかを提示し、教材の傾向を分析した結果を紹介した。続いて日本独自の漢文の読み方である「訓読法」を紹介し、実際に孟浩然「春暁」を台湾の大学生にも訓読してもらった。最後に宇部高専で畑村が行っているコミュニケーション教育と漢文を結びつけた授業について、特に『論語』を用いた授業を紹介するとともに、日本人の学生だけでなく台湾の若い人たちにとってもコミュニケーション能力がいかに大事であるかを述べた。